

## 北海道と朝鮮人戦時労働者問題

長谷 亮介 ( 歴史研究プロジェクト )

1965年に朴慶植『朝鮮人強制連行の記録』が発行され、朝鮮人は暴力的に日本に連れてこられて奴隷のように働かされたという通説が確立された。北海道では北海道炭礦汽船株式会社（北炭）が特に批判された。

しかし、実際に北炭の管理下にあった万字炭鉱の一次史料を読むと強制連行や強制労働を否定する内容が記されている。例えば、朝鮮人労働者には日本人同様に怪我に対する補償金が出されており、怪我の程度や個所数に応じて金額が決定されており、民族差別はなかった。さらに、死亡時は遺骨と高額の弔慰金を遺族に渡した文書も残っており、英霊として葬儀が行われていた。